

いのちの言の葉

「多くの人に愛され、大切にされている自分」(道徳)

富山市立新庄小学校 対象：3学年児童

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年10月15日実施

「シンちゃんの入院」

講師坂井桂子さんの自作資料「シンちゃんの入院」をもとに、登場人物やその家族の気持ちを十分に考えることを通して、多くの人に愛されている自分を実感しました。

坂井 桂子 先生のプロフィール

聖路加看護大学卒業、県立中央病院、総合衛生学院で勤務。
平成19年4月、石川県立看護大学大学院修士課程入学。

坂井さんのお話を聞いていのちは大切なんだと思いました。病気でいのちを落としたり自殺したりする人がいるけど、そんなことのない国になってほしいです。

入院している友達が死んだら、ぼくだけじゃなくて他のみんなも悲しくなります。だから、病気を治すことができるように病院のお医者さんや看護師さんに頑張ってもらいたいと思います。

本当に生まれてきてよかった、お母さんありがとうございました。いのちは大切だと分かっていたのですが、もっと大切なんだと話を聞いて思いました。生きるってどんなことかを考えてみてよかったです。元気に明るく生きていきたいと思いました。

自作資料「シンちゃんの入院」

シンちゃんは急に病気になり、手術することになって2週間入院した。同じ病室のこうちゃんと友達になる。仲よく過ごした2週間、シンちゃんは退院し学校に行けるようになった。その後、しばらくして病室を再び訪問すると、こうちゃんはおらず、看護師さんから「こうちゃんは天国に旅立った」と聞かされる。

【内容】

- ① 「シンちゃんの入院」の物語を画像と話で紹介する。
- ② 登場人物の気持ちを考えさせながら話を進める。
- ③ 全体を通しての感想を求めながら「生きることといのち」について考えさせる。

私は、生きるってことは、どんどん家族が増えていくことだと思います。おなかに新しいいのちが宿る。死んでしまったらその家族の一部がなくなるが、次にまた生まれていのちが続いてのだと思います。私は「いのちは巡る」と思っています。神様が与えてくれたいのちだから大切にしたいです。

一人一人が平等ではないことが坂井さんのお話で分かりました。ただ一つの平等は「一人にいのちは一つ」ということです。だから自分のいのちを大切にしていきたいです。